

2022年度 京都教育大学附属特別支援学校 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

① 教育活動その他の学校運営に関する事項（学校教育法に基づく評価）

本年度の 重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己 評価 区分	学校関係者評価	改善策
(1) 今までの教育実践の根底にある教育観、発達観（学び・育ち）を大切にしつつ、現在の課題に取り組み、目指す教育の実践を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育目標「生活意欲に富む、個性豊かな社会人を育成する」を見据えつつ、児童生徒の目標に迫る学習内容や支援方法を検討して授業づくりを行う。 児童生徒の学習の成果を的確に捉え、授業及び教育課程の改善を図る。 ICT機器の活用等、学びを深め、広げる取組を行う。 ニーズや課題に応じた研究活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が主体的に研究に取り組むために、6つの研究グループを設定して研究を実施した。「授業づくりⅠ、Ⅱ」グループでは、本校の教育について共通理解や教材研究のあり方を検討し、「キャリア教育」グループでは、進路学習の検討課題を整理するなど、各研究グループで成果と課題を発表・共有した。 ICTメディア部を中心に、授業におけるタブレット端末の有効な活用、校内研修、本校ホームページ（R3年度リニューアル）の利用を進めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研究発表会で、京都府・市の指導主事を招き、本校の研究について指導助言を得ることができた。概ね良好な評価が得られた。 授業におけるタブレット端末を用いた授業を実施した。中学部においてタブレットを用いた作品作りを行ったり、高等部において本校の紹介ビデオを作成したりするなど、活用する機会が増加した。ICT機器の活用は興味深いので、新たな方向性についても目を向けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究グループによる研究だけでなく、統一したテーマに基づく校内研究を実施し、広く校内外に発信をする。 ICT機器を必要に応じて授業で使用するなど、効果的な使用方法についてさらに検討する。
(2) 本校の学習環境・施設をいかした本校らしさのある取組や、身につけた力を地域社会で発揮することができる学習を展開し、地域との連携を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 藤城社会福祉協議会や藤城自治会連合と連携し、かめっこクラブの畑の作物収穫等、体験ができる場を提供し子育て支援を継続する。 児童生徒が身につけた力を、地域の特別支援学級や特別支援学校との交流及び共同学習や地域とつながる学習で、発揮することができる取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 藤城社会福祉協議会や藤城自治会連合と連携し、かめっこクラブの畑の作物収穫について人数を制限しながら実施した。 附属幼稚園5歳児親子園外保育（昼食なし）、交流を実施した。 中学部では地域とのつながりを重視した授業、高等部では大学構内での販売会を実施するなど、地域との連携を通じた学習を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策で制約のある生活の中、戸外で親子による収穫活動や幼稚園・小学校との交流を行ったり、校内での授業だけでなく、大学や地域との交流や販売会を実施したりするなど、地域に開いた授業を実施することができている。・発達障害学科のみならず、国文学科、体育学科、美術科、音楽科と連携して、部活動や授業、研究を実施しており、大学との連携が取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策を講じながら、地域や学校との交流する機会を増やす。 校内研究においても、他の特別支援学校との授業を通じた交流を計画し、共通理解を向上させながら、より良い授業のあり方について検討する。

<p>(3) 研究・研修、特別支援教育の教員養成等における大学との連携において、教育実践における連携を深める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害学科教員及び他学科教員と協同し、本校の教育実践の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 美術科の授業において、高等部窯業班の鑄込み型の開発を行なった。今年度から中・高等部において、部活動を開始し、国文学科、体育学科、美術科から研究について助言を受けた。本校の校内研究において、発達障害学科の教員に、研究計画段階から協力してもらい、研究成果をまとめた。また、小学部では音楽科の学生や教員と共同で授業を実施した。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害学科のみならず、国文学科、体育学科、美術科、音楽科と連携して、部活動や授業、研究を実施しており、大学との連携が取れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、部活動を通して、大学の教員と連携を図れるように、研究活動に組み込みながら、成果と課題を整理する。
<p>(4) 保護者との連携を深め、学校づくりを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組が保護者により伝わるように、ホームページ等の情報発信力を高める。 保護者の「朝の声かけ運動（通学路の見守り）」等、保護者と連携しながら児童生徒の活動を支え、学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 取組がより伝わるように、ホームページを一新した。 通学路の安全について情報共有をしながら、保護者と教員による登校時の見守りを実施した。 「進路懇談会」「食に関する研修会」などを実施し、保護者との連携を深めた。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの結果から、概ね良好な評価を得ることができている。 通学路の安全については今後も保護者と連携しながら、予防的な取り組みを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の取組がより伝わるように、ホームページ等で用いた発信を積極的に実施する。 保護者との連携を深めながら取組を進める。

2022年度 京都教育大学附属特別支援学校 学校評価

自己評価区分	
A	十分達成できた
B	概ね達成できた
C	十分には達成できなかった
D	ほとんど達成できなかった

② 附属学校園の機能向上に関する事項

本年度の重点目標	具体的な取組内容	自己点検評価	自己評価区分	学校関係者評価	改善策
教育研究活動の成果を公表する	・教育創生リージョナルセンター機構、京都府・市教育委員会の支援を受け、公開研究会を実施する。	・6つの研究グループを設定して研究を実施し、成果について京都府・市の指導主事を招き、本校の研究について指導助言を得た。	B	・研究成果について概ね良好な評価が得られた。	校内を中心とした発表だけでなく、広く成果を発表する機会を作る。
大学と附属学校園とが連携した研究を実施する	・大学と附属学校園とが連携した共同研究「教育研究改革・改善プロジェクト」に申請する。	・「教育研究改革・改善プロジェクト」に2件の研究を申請し、実施することができた。	A	「教育研究改革・改善プロジェクト」の成果について、論文として発表できた。	引き続き、「教育研究改革・改善プロジェクト」を活用して、研究を進める。
総合教育臨床センター学びサポート室と連携する	・総合教育臨床センター学びサポート室共同実践者を選出し、参画する。	・学びサポート室の共同実践者として、検査の実施や相談活動を実施した。	B	学びサポート室の業務として、相談や検査を実施し、学校園に結果をフィードバックできている。	校務分掌として学びサポート室の共同実践者を位置付け、教員のスキルアップの位置付けも含めて、体制について検討する。
業務改善及び教職員の働き方に関する取組を推進する	・校務・会議の効率化・情報化とともに教職員の役割分担を見直し、学校行事等の内容を検討し、学校業務の適正化を図る。	・教職員の役割分担を見直し、入学選考のあり方や校内行事等の進め方について、整理した。また、感染症対策について教職員間の共通理解を図って実施した。	B	入学選考や教務の業務、学校行事のあり方などを整理してきている。	引き続き学校業務の適正化を図るために、業務の精選や役割分担、働き方に対する検討を行う。